

モデル事業名	環境をテーマとした子育て世代に向けた二地域居住推進モデル事業
活動団体名	茅野まちづくり研究所有限責任事業組合
ホームページ	http://chino.machiken.jp
所属／ 担当者名	研究開発部門 山本 永
連絡先	0266-73-8893、yamamoto@chino.machiken.jp
活動地域	長野県茅野市

### ● 活動地域の概要

- 茅野地域は蓼科、八ヶ岳を擁する高原地域で、市面積の75%を森林が占め自然環境に恵まれた地域である。また、東京、名古屋の都市部から約150Kmの距離にあり、鉄道利用でも2時間程度であるため、利便性が高く都市居住者が年間400万人訪れ、別荘もおおよそ2万棟が建設されている。
- 産業面では諏訪広域圏の精密工業を中心とする産業集積を形成しており、茅野市の行政施策も福祉政策等を中心に推進してきたことから、産業、環境、生活が整った地域である。今後の人口動態は、社会増を中心として2015年までに人口増加を続け、その後は減少すると推計される。



【都市居住者ひきつける車山高原、八ヶ岳】

【茅野市の位置】

### ● 活動地域の課題

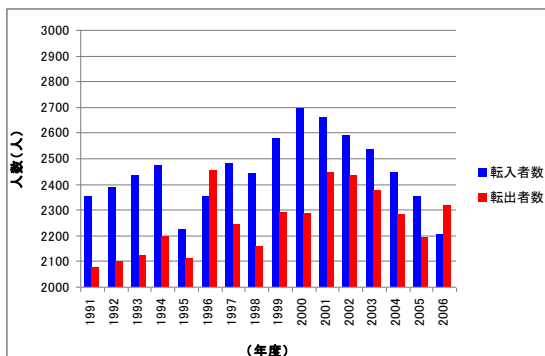
- 地域経済の衰退：茅野市の事業所数は平成8年をピークに減少傾向にあり、従業員数も減少している。茅野駅周辺の商店街も衰退しており、茅野市内における新たな産業の創出による地域経済の活性化が急務となっている。不況の長期化により企業が手放した社宅もそのままになっており、2万棟の別荘も含め、これらの建物の老朽化や空き家の増加等が進んでおり、活用されていない別荘や施設等が多くあることが想定され、これらの利活用が求められている。

★観光地別観光客の推移及び観光消費額 (各年12月31日現在)

年	地区	計	観光消費額
			人
平成2		5,131,000	1,869,832
7		4,762,500	1,671,062
12		4,449,700	1,572,834
17		3,989,300	1,276,363

資料：商業観光課

- 転入人口の減少と新しい雇用づくり：精密工業等の集積により人口は微増傾向にあるが転入人口は減少している。地域資源である森林バイオマス等を利用した環境事業等の事業創出により、転入者転出者対策が必要となっている。



年	総数	転入人口								
		県内			県外					
		諏訪地方	その他	東京	神奈川	山梨	愛知	その他		
平成16年	3,103	1,397	796	601	1,706	269	166	71	83	1,117
平成17年	2,919	1,345	759	586	1,574	223	134	79	72	1,066
平成18年	2,676	1,304	764	540	1,372	270	112	65	51	874
平成19年	2,638	1,308	774	534	1,330	210	137	81	61	841
平成20年	2,442	1,316	774	542	1,126	196	112	68	42	708

- ③ 間伐の推進、森林バイオマスの活用：茅野市は平成13年3月に茅野市環境基本計画を策定し、めざす環境都市像を「八ヶ岳の豊かな自然と人が調和する環境先進都市」とし、様々な取り組みや調査を行ってきた。平成20年度に環境省「低炭素地域づくり面的対策推進事業」の基本調査を行ったところ、茅野市の200.68K㎡が森林・原野で、戦後の植林政策によりカラマツの人工林が60K㎡（材積は1,383,732m³）あり豊富な森林バイオマスがあるが、林業の低迷、担い手が不足していることから森林バイオマスの活用が進んでいない状況であることが判明した。

## ● 活動の内容

### ・平成21年度

- ①子育て世代の二地域居住者受け入れのための地域資源調査及び手法の検討
- ②子育て世代の二地域居住に関するライフスタイル実現に向けた実態調査
- ③「森と子どもとライフスタイル（仮称）」ハンドブック（冊子）とWebの制作

## ● 活動の成果

### ・平成21年度

- ・景気低迷を受けて別荘地では、空き物件や未利用物件はあるものの、一部の開発事業者を除いてレンタル等の安価での提供については消極的である。
- ・遊休農地、林業の都市居住者の提供は、一部試行されているが、情報発信等アピール力が不足している。
- ・また、都市の子育て家庭は、茅野市の自然豊かな地域でのライフスタイルについては関心が高いものの、二地域居住となると東京での仕事の両立、茅野市での仕事の確保の「雇用」がボトルネックとなっている。
- ・そこで、まず、地域でばらばらになっている滞在施設、農地、林地等の情報を一つに集め一元化すること。子育て世代に関心が高い、「情操教育」等の子どもの育成に関する体験プログラムを提供することが重要である。
- ・そういった居住、農業・林業体験、農産物を利用したコミュニティレストラン等による“蓼科共生スタジオファーム”と、森林バイオマスエネルギーの拠点施設である“森林バイオマスパーク”を提案する。これらは、ハコにこだわったものではなく、様々な活動に応じて整備され、運営されることが望ましい。
- ・本プロジェクトの成果は、商工会議所、宅建協会、建設事業組合が進める「田舎暮らし楽園信州ちの」の活動と連携をとりながら、今後も推進する。



## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

- ・二地域居住や中長期滞在に対するニーズが高い事がわかったが、雇用環境が大きな阻害要因となっている。都市企業の二地域居住の理解、中長期休暇、ボランティアホリデイ等の社会参加と、茅野側での雇用確保が今後の課題である。
- ・自然の中での成長する子ども力、家庭力について、教育心理学等から科学的に有効性を検証したい。

### ・展望

- ・具体的な拠点となる立地を決定し、モデル事業の実施を検討する。
- ・また、子育て家庭の情報交換の場としてインターネットでのコミュニティサイトを設置する。